

MENU

SEARCH

INDEX

DETAIL

JAPANESE

1 / 1

## PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 2000-235560

(43)Date of publication of application : 29.08.2000

(51)Int.Cl.

G06F 15/78

G06F 13/36

(21)Application number : 11-036949

(71)Applicant : HITACHI LTD

(22)Date of filing : 16.02.1999

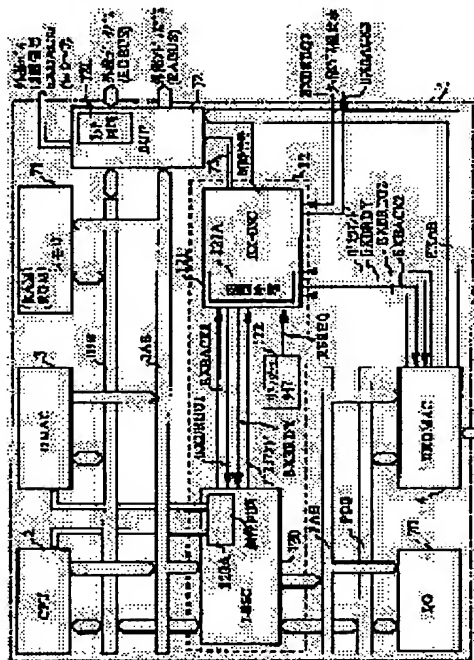
(72)Inventor : MITSUISHI NAOMIKI

## (54) MICROCOMPUTER AND MICROCOMPUTER SYSTEM

## (57)Abstract:

**PROBLEM TO BE SOLVED:** To make it possible to process both data transfer control on an external bus of a microcomputer and CPU operation such as an access to an internal bus by a built-in CPU in parallel while minimizing the increment of the physical/ logical scale.

**SOLUTION:** A microcomputer 1 including a CPU 2 in its inside is provided with a 1st data transfer device 4 for controlling direct memory access transfer on external buses EDBUSA, EABUS of the microcomputer 1 and parallel execution of an internal bus access by the CPU 2 or the like and external data transfer control by the device 4 is made possible. An internal bus access by the CPU 2 and an external access by the device 4 are collectively controlled by an external bus controller 121. Consequently, the transfer of data on the external bus by the device 4 and instruction execution or the like using the internal bus by the CPU 2 can be executed in parallel.



## LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

07.03.2003

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2000-235560

(P2000-235560A)

(43) 公開日 平成12年8月29日 (2000.8.29)

(51) Int.Cl. <sup>7</sup>	識別記号	F I	テマコード*(参考)
G 0 6 F 15/78	5 1 0	G 0 6 F 15/78	5 1 0 G 5 B 0 6 1
13/36	3 1 0	13/36	3 1 0 E 5 B 0 6 2

審査請求 未請求 請求項の数18 O L (全 20 頁)

(21) 出願番号 特願平11-36949

(22) 出願日 平成11年2月16日 (1999.2.16)

(71) 出願人 000005108

株式会社日立製作所

東京都千代田区神田駿河台四丁目6番地

(72) 発明者 三ッ石 直幹

東京都小平市上水本町五丁目20番1号 株

式会社日立製作所半導体事業本部内

(74) 代理人 100089071

弁理士 玉村 静世

Fターム(参考) 5B061 BA01 BB01 FF01 GG01 PP05

RR02 RR03 RR06

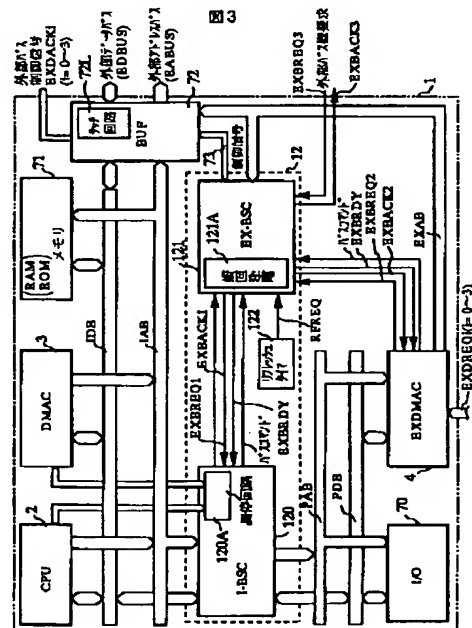
5B062 AA03 DD08 EE08

(54) 【発明の名称】 マイクロコンピュータ及びマイクロコンピュータシステム

(57) 【要約】

【課題】 物理的・論理的規模の増大を最小限とし、マイクロコンピュータの外部バス上のデータ転送制御と内蔵CPUによる内部バスアクセス等のCPU動作とを並列処理可能にする。

【解決手段】 CPU (2) を内蔵するマイクロコンピュータ (1) に、当該マイクロコンピュータの外部バス (EDBUSA, EABUS) 上でのダイレクト・メモリ・アクセス転送を制御する第1のデータ転送装置 (4) を設け、第1のデータ転送装置による外部データ転送制御に並行して、マイクロコンピュータ内部のCPUなどによる内部バスアクセスを可能とする。CPUによる外部バスアクセスと第1のデータ転送装置による外部アクセスを、外部バスコントローラ (121) によって一括して制御する。第1のデータ転送装置による外部バス上のデータ転送と、CPUによる内部バスを用いた命令実行などが並列化できる。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 記憶手段と、第1の内部バスを介して記憶手段をアクセス可能であって命令を実行するデータ処理装置と、データ転送制御を行う第1のデータ転送装置と、前記第1の内部バス又は前記第1のデータ転送装置を外部バスに接続可能とするバスインタフェース手段と、バス制御とバス権の調停を行うバス制御手段と、を1個の半導体チップに含んで成るマイクロコンピュータであって、

前記バス制御手段は、前記第1の内部バスを用いたマイクロコンピュータ内部のみのアクセス動作と前記第1のデータ転送装置による前記バスインタフェース手段を介する外部アドレス空間のアクセス動作とを並行可能にするものであることを特徴とするマイクロコンピュータ。

【請求項2】 前記バス制御手段は、前記第1のバスを共有するバスマスタ手段によるバス権要求を調停する内部バスコントローラと、前記外部バスをアクセスするバス権要求を調停する外部バスコントローラとを有し、前記外部バスコントローラは、外部アクセスを要求している前記バスマスタ手段が前記内部バスコントローラでバス権を取得したときの当該内部バスコントローラからの外部バス権要求と、前記第1のデータ転送装置からの外部バス権要求と、マイクロコンピュータの外部から与えられるバス権要求とを調停可能なものであることを特徴とする請求項1記載のマイクロコンピュータ。

【請求項3】 前記第1のデータ転送装置は、夫々がダイレクト・メモリ・アクセス制御可能な複数のデータ転送チャネルを有し、前記データ転送チャネル毎に外部データ転送起動要求信号を入力するものであることを特徴とする請求項1又は2記載のマイクロコンピュータ。

【請求項4】 前記第1のデータ転送装置は、アドレス情報の初期値が指定されるアドレス指定手段、アドレスバッファ手段、及び算術演算手段を有し、前記アドレス指定手段が出力するアドレス情報はバスを介して前記アドレスバッファ手段及び算術演算手段に供給され、

前記アドレスバッファ手段に供給されたアドレス情報は前記バスインタフェース手段に供給可能にされ、

前記算術演算手段は、入力されたアドレス情報に対してアドレス情報の所定ビット位置よりも上位ビットの値を固定することを条件として算術演算を行い、その演算結果を前記アドレス指定手段に供給するものであることを特徴とする請求項1乃至3の何れか1項記載のマイクロコンピュータ。

【請求項5】 前記記憶手段は、前記データ処理装置の動作プログラムを格納するROMであり、前記データ処理装置のベクタを含むアドレスエリアに配置されるか、含まないアドレスエリアに配置されるかを、選択可能であることを特徴とする請求項1乃至4の何れか1項記載のマイクロコンピュータ。

【請求項6】 前記第1のデータ転送装置は、第2のバスを介して前記バスインタフェース手段に結合され、第3のバスを介して前記内部バスコントローラに結合される、

第1のデータ転送装置は、前記第3のバスを介してデータ転送条件が設定され、外部アクセスに用いるアドレス信号を前記第2のバスに出力するものであることを特徴とする請求項2記載のマイクロコンピュータ。

【請求項7】 前記バスインタフェース手段はデータラッチ手段を有し、前記外部バスコントローラは、前記第1のデータ転送装置にバス権を与えたとき、前記第1のデータ転送装置のデュアルアドレッシングモードにおいてソースアドレスで読み出したデータを前記データラッチ手段にラッチさせ、ラッチしたデータをディスティネーションアドレスに書き込み制御するものであることを特徴とする請求項6記載のマイクロコンピュータ。

【請求項8】 前記第1のバスを共有する前記バスマスタ手段として第2のデータ転送装置を更に備え、前記第2のデータ転送装置は前記データ処理装置によってデータ転送制御条件が設定されてダイレクト・メモリ・アクセス制御可能とされて成るものであることを特徴とする請求項2項記載のマイクロコンピュータ。

【請求項9】 前記データ処理装置及び前記第2のデータ転送装置は夫々バス権要求信号を前記内部バスコントローラに出力し、前記内部バスコントローラはバス権要求信号によるバス権要求を調停し、その調停結果をバス権アクノリッジ信号によって前記データ処理装置及び前記第2のデータ転送装置に夫々与えるものであることを特徴とする請求項8記載のマイクロコンピュータ。

【請求項10】 前記内部バスコントローラは、前記バス権アクノリッジ信号によってバス権を獲得した前記データ処理装置又は前記第2のデータ転送装置が前記外部アドレス空間をアクセスするとことを、外部バス権要求信号によって前記外部バスコントローラに通知し、外部バスコントローラは内部バスコントローラからの外部バス権要求を承認したとき、外部バス権アクノリッジ信号によって前記内部バスコントローラにバス権承認を通知すると共に、バス権を承認したデータ処理装置又は前記第2のデータ転送装置に前記バスインタフェース手段及び前記第1のバスを介して外部アドレス空間のアクセスを可能にするものであることを特徴とする請求項9記載のマイクロコンピュータ。

【請求項11】 前記バス制御手段は、リフレッシュタイマを更に有し、前記外部バスコントローラは前記リフレッシュタイマから出力されるリフレッシュ要求をその他の外部バス要求と調停し、リフレッシュ要求を承認したときバスインタフェース手段からリフレッシュ動作の指示信号を出力させるものであることを特徴とする請求項10記載のマイクロコンピュータ。

【請求項12】 前記外部バスコントローラはマイクロ

コンピュータの外部からバス権開放要求信号を入力し、その要求を前記外部バス権要求及び前記リフレッシュ要求と調停し、バス権開放要求を承認するとき、外部にバス権開放アクノリッジ信号を外部に出力すると共に、前記バスインタフェース手段を高インピーダンス状態に制御するものであることを特徴とする請求項1記載のマイクロコンピュータ。

【請求項13】 記憶手段と、第1の内部バスを介して記憶手段をアクセス可能であって命令を実行するデータ処理装置と、前記第1の内部バス及び第2の内部バスに接続されデータ転送制御を行うデータ転送装置と、前記第1の内部バス又は前記第2の内部バスを選択的に外部バスに接続可能とするバスインタフェース手段と、バス制御とバス権の調停を行うバス制御手段と、を1個の半導体チップに含んで成るマイクロコンピュータであって、

前記バス制御手段は、前記第1の内部バスを用いたマイクロコンピュータ内部のみのアクセス動作と前記データ転送装置による前記第2のバスから前記バスインタフェース手段を介する外部アドレス空間のアクセス動作とを並行可能にするものであることを特徴とするマイクロコンピュータ。

【請求項14】 請求項1乃至13の何れか1項記載のマイクロコンピュータと、

前記マイクロコンピュータのバスインタフェース手段に接続された外部バスと、  
前記外部バスに接続されたRAMと、を含んで成るものであることを特徴とするマイクロコンピュータシステム。

【請求項15】 請求項3記載のマイクロコンピュータと、

前記マイクロコンピュータのバスインタフェース手段に接続された外部バスと、

前記外部バスに接続されたRAMと、  
前記外部バスに接続されたデータ通信回路とを含み、

前記データ通信回路は前記マイクロコンピュータの第1のデータ転送装置に外部データ転送起動要求信号を供給し、

前記第1のデータ転送装置は、バス制御手段によってバス権が承認されたとき、外部データ転送承認信号によって前記データ通信回路に転送を指示するものであることを特徴とするマイクロコンピュータシステム。

【請求項16】 前記第1のデータ転送装置は、前記データ通信回路と前記RAMとの間のデータ転送をシングルアドレッシングモードで制御可能であり、前記データ通信回路には前記外部データ転送承認信号によって転送を指示し、RAMにはアクセスアドレス信号によってアクセス開始を指示するものであることを特徴とする請求項15記載のマイクロコンピュータシステム。

【請求項17】 前記第1のデータ転送装置は、アドレ

ス情報の初期値が指定されるアドレス指定手段、アドレスバッファ手段、及び算術演算手段を有し、  
前記アドレス指定手段が出力するアドレス情報は前記アドレスバッファ手段及び算術演算手段に供給され、  
前記アドレスバッファ手段に供給されたアドレス情報は前記バスインタフェース手段に供給可能にされ、  
前記算術演算手段は、入力されたアドレス情報に対してアドレス情報の所定ビット位置よりも上位ビットの値を固定することを条件として算術演算を行い、その演算結果を前記アドレス指定手段に供給するものであることを特徴とする請求項16記載のマイクロコンピュータシステム。

【請求項18】 前記算術演算手段は、前記算術演算として、前記アドレス指定手段に指定されたRAMのアドレスをインクリメント又はデクリメントする演算を行い、前記RAMをリングバッファとして利用可能にするものであることを特徴とする請求項17記載のマイクロコンピュータシステム。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、中央処理装置とデータ転送装置を内蔵したマイクロコンピュータ、更には、そのようなマイクロコンピュータを用いたマイクロコンピュータシステムに関するものである。

【0002】

【従来の技術】マイクロコンピュータの一例として、昭和59年11月30日オーム社発行の『LSIハンドブック』P540及びP541には、中央処理装置(CPU)を中心にしてプログラム保持用のROM(リードオンリメモリ)、データ保持用のRAM(ランダムアクセスメモリ)、及びデータの入出力を行なうための入出力回路などの機能ブロックが一つの半導体基板上に形成されて成るものが記載されている。

【0003】マイクロコンピュータとして、ダイレクトメモリアccessコントローラ(DMAC)を内蔵し、CPUとは独立にデータ転送可能にされたものがある。このようなマイクロコンピュータについて記載された文献の例として特開平5-307516号公報がある。

【0004】また、マイクロコンピュータの中には、外部に対してバス権を開放する外部バス権解放機能を持ち、外部バス権解放中も、CPUによるROMリードなどの、内部バスの動作が可能なものがある。このようなマイクロコンピュータの外部バスに、DMACを接続すれば、CPUによるROMリードなどの内部バスの動作と、外部のDMACによる外部バス上のデータ転送と、を並行して行うことができる。

【0005】

【発明が解決しようとする課題】本発明者は前記DMAC内蔵マイクロコンピュータやそれを用いたシステム、更には、前記外部バス権開放機能を持つマイクロコンピ

ュータの外部にDMACを接続したシステムについて検討した。

【0006】まず、DMAC内蔵マイクロコンピュータにおいて、そのDMACは、割り込み要求によって起動でき、リビートモード、ブロック転送モードなどを行なうことができる。プリンタなどのシステムにおいて、DMAC内蔵マイクロコンピュータは、ステッピングモータの制御（複数）やプリンタの印字データ制御、更には、受信データのメモリへの蓄積に好適であり、DMACは複数のデータ転送チャネルを持つことができる。

【0007】しかしながら、DMACの転送制御はCPUの動作とは独立しているが、バスを共有しているために、データ転送に必要なバスサイクルはCPUの動作を停止させてしまう。例えば、内蔵DMACによりRAMから入出力回路へデータを転送する場合、RAMのアクセスを2ステート、入出力回路のアクセスを3ステートとして、デッドサイクル1ステートを含めれば、そのデータ転送には6ステートを要する。この期間、CPUはバスを用いることはできない。特に制限されないが、ここでは、マイクロコンピュータのようなデータ処理LSIの基準クロックの1周期を1ステートとする。

【0008】これに対して、前記外部バス権開放機能を持つマイクロコンピュータの外部にDMACを接続したシステムでは、CPUのROMリードなどの内部バスの動作と、外部のDMACによる外部バス上でのデータ転送とを並行して行うことができる。

【0009】しかしながら、外部バス権解放は、そのバス権の授受の際に、外部との間でのアクノレッジ信号やリクエスト信号などを認識しなければならず、少なくとも、そのための動作時間が余計にかかる。また、マイクロコンピュータと外部のDMACのバスが衝突したりしないようにするために、双方がバスを使用しない時間が発生したりして、実際の動作に関係のないオーバーヘッドが発生し易い。一回のデータ転送の前後に、オーバーヘッドが発生してしまうのでは、実際のデータ転送の時間に比較してこれを無視することはできない。また、マイクロコンピュータ外部のDMACに、汎用的なものを使用すれば、使用しない機能が生じてしまい、費用対効果の面で得策とは言えない。また、各システムに適したDMACを個別に開発することは可能だが、マイクロコンピュータと別のLSIを新たに開発することは、製造費用などの面で不利になりやすい。

【0010】また、例えば、プリンタなどのシステムにおいて、印刷中には、プリンタを駆動するためのステッピングモータの駆動が必要であり、印字データの加工など、システムに固有のデータ処理を行う必要もあり、また、プリンタの動作状態とは非同期でデータ受信を行う必要がある。そして、プリンタの高速化や高精度化には、マイクロコンピュータの処理能力の向上が必要である。

【0011】以上により、本発明者は、マイクロコンピュータにDMACのようなデータ転送装置を内蔵させ、その上で、マイクロコンピュータによる処理のトータル性能を向上させるという観点の重要性を見出した。

【0012】本発明の目的は、DMACのようなデータ転送装置を内蔵したマイクロコンピュータによるデータ処理のトータル性能を向上させることができるマイクロコンピュータを提供することにある。

【0013】本発明の別の目的は、物理的・論理的規模の増大を最小限とし、マイクロコンピュータの外部バス上のデータ転送制御と内蔵CPUによる内部バスアクセス等のCPU動作とを並列処理可能にすることができるマイクロコンピュータを提供することにある。

【0014】本発明の更に別の目的は、マイクロコンピュータと外部との間のデータ転送制御及びマイクロコンピュータ内部の演算処理を並列的に処理可能であって、しかも処理のオーバーヘッドが少なく、物理的な規模の増大も最小限とすることができるマイクロコンピュータシステムを提供することにある。

【0015】本発明の前記並びにその他の目的と新規な特徴は本明細書の記述及び添付図面から明らかになるであろう。

【0016】

【課題を解決するための手段】本願において開示される発明のうち代表的なものの概要を簡単に説明すれば下記の通りである。

【0017】すなわち、マイクロコンピュータ（1）の外部バス上でのデータ転送を制御するダイレクト・メモリ・アクセスコントローラのような第1のデータ転送装置（4）を設け、前記第1のデータ転送装置による外部バス上でのデータ転送と、CPUのようなデータ処理装置（2）による第1の内部バス（IAB、IDB）を用いた命令実行とを並行可能にするものである。更に詳しくは、マイクロコンピュータ（1）は、前記第1の内部バス又は前記第1のデータ転送装置を外部バスに接続可能とするバスインタフェース手段（72）と、バス制御とバス権の調停を行うバス制御手段（12）とを有し、前記バス制御手段は、前記第1の内部バスを用いたマイクロコンピュータ内部のみのアクセス動作と前記第1のデータ転送装置による前記バスインタフェース手段を介する外部アドレス空間のアクセス動作とを並行可能にするものである。

【0018】第1のデータ転送装置による外部バス上でのデータ転送と、CPUのようなデータ処理装置による内部バスを用いた命令実行とが並列に動作可能であるから、マイクロコンピュータの処理性能を向上できる。データ処理装置の処理性能を低下させることなく、外部バス上でのデータ転送を行うことができる。

【0019】前記バス制御手段（12）を内部バスコントローラ及び外部バスコントローラによって構成するこ

とができる。外部バスコントローラは、アドレス空間を分割して、メモリの種類やバス幅、アクセスステート数などのバス仕様が設定可能にされ、CPUのようなデータ処理装置等のバスマスタによる外部バス権要求と、前記第1のデータ転送装置による外部バス権要求と、マイクロコンピュータ外部からのバス権要求とを調停するように構成できる。これにより、第1のデータ転送装置による外部バスアクセスと並行する前記データ処理装置による第1の内部バスを用いた内部アクセスの制御と、データ処理装置による第1の内部バスを用いた外部バスアクセスと第1のデータ転送装置による外部バスアクセスとの調停制御を個別の論理で簡単に実現でき、制御内容の容易性と、その制御論理規模の増加抑止との両立が簡単になる。

【0020】このとき、前記第1のデータ転送装置が出力するアドレスやバスコマンドなどを第2の内部バス(EXAB)のような専用信号線路で前記バスインタフェース手段に供給すれば、第1のデータ転送装置の状態遷移制御動作を簡潔にでき、その論理的規模の縮小に寄与できる。

【0021】また、外部バスコントローラが、マイクロコンピュータに内蔵された第1のデータ転送装置による外部バス権要求と共に、マイクロコンピュータ外部からのバス権要求も含めて外部バス権要求の調停を行うから、データ処理装置と第1のデータ転送装置との間での外部バス権移譲時のオーバーヘッドを少なくでき、さらに処理性能を向上できる。

【0022】CPUのようなデータ処理装置のプログラムを格納するROMのような記憶手段(6)は、CPUのようなデータ処理装置のベクタを含まないように、動作モードなどで選択可能にすることができる。これにより、全体的な処理プログラムを外部のROMに、高速処理が必要なプログラムなどを内蔵ROMに格納することができ、プログラムの変更に対する柔軟性など使い勝手を向上させることができる。

【0023】前記第1のデータ転送装置の起動要因や転送モードについては、外部バス上のデータ転送に必要な機能だけに限定することができる。これによって、物理的規模を縮小できる。

【0024】第1のデータ転送装置において転送アドレスを決め、そのアドレス情報の初期値が指定されるアドレス指定手段(40, 41)を転送カウンレジスタと兼用することによりレジスタ数を減らすことができる。

【0025】また、デュアルアドレス転送においてソースアドレスから読み出したデータの一時保持を、バスインタフェース手段(72)を構成する入出力ポート等のラッチ回路(72L)で行うことにより、そのようなデータを第1のデータ転送装置に導くデータバスが不用になり物理的な規模を縮小できる。

【0026】第1のデータ転送装置がシングルアドレス

転送もサポートすれば、転送に必要なバスサイクルを短縮し、更に処理性能を向上できる。

【0027】第1のデータ転送装置は複数のデータ転送チャンネルを持つことができる。このとき、各チャンネル毎に外部データ転送起動要求信号を割り当てることができる。これにより、マイクロコンピュータシステムにおけるデータ転送制御の使い勝手が向上し、処理性能を向上させることができる。

【0028】転送アドレスを格納するレジスタのようなアドレス指定手段に対する演算結果の繰返し格納によるアドレス更新を行うことにより、外部のバッファメモリを、容易にリングバッファとして使用できる。CPUのようなデータ処理装置が、随時第1のデータ転送装置内部の前記アドレス指定手段のようなレジスタを第3の内部バス(PAB, PDB)を介してリード/ライトできるようにすれば、リングバッファ上に蓄積されたデータ量の管理などを容易に行うことができる。

【0029】前記リングバッファとして利用するための前記繰返しアドレス更新動作を可能にするにあたっては、アドレス指定手段のアドレス情報をインクリメント/デクリメントするとき、キャリ/ボローの伝播を所定のビットで禁止するとよい。キャリ/ボローの伝播を所定のビットで禁止することによって、リングバッファとしての機能を最小限度の物理的規模で実現可能に成る。リングバッファの開始アドレスや終了アドレスを任意に指定できなくとも、外部のRAMのような大容量のメモリをリングバッファに利用する場合には大きな不都合は生じない。繰返し動作可能とすることによって、CPUのようなデータ処理装置に対する割り込み処理のような負荷をなくすることができる。

【0030】デュアルアドレス転送時における転送データの一時記憶などは、バスインタフェース手段の入出力ポートなどを使用し、第1のデータ転送装置それ自体が直接転送データを入出力しないようにできる。これにより、第1のデータ転送装置が入出力するデータは、第1のデータ転送装置自体のリード/ライトはなく、CPUのようなデータ処理装置からリード/ライトされるだけになるから、前記データ処理装置などの他のバスマスタからのアクセスと、第1のデータ転送装置自体のデータ転送との競合を、本質的に回避して、論理構成を更に簡潔にでき、また、マイクロコンピュータの開発期間短縮にも寄与する。

【0031】CPUのようなデータ処理装置とDMACのような前記第1のデータ転送装置に加えて、従来のマイクロコンピュータ用の内部バスに接続されたところのマイクロコンピュータ内外でのデータ転送制御をサポートできる第2のデータ転送装置(3)も内蔵することができる。これにより、内外でのDMA転送制御のために汎用的なDMACで必要なデータ転送チャンネルを確保する場合に比べると、第1のデータ転送装置は外部バスに

関するデータ転送制御に特化した構成を持つので、全体的に必要な数のデータ転送チャンネルを持っても、論理的な規模の増加を最小限に抑えることができる。

【0032】バス制御手段が、DRAMなどのリフレッシュ制御も可能にすると、リフレッシュタイムも外部バス権要求元としてバス権調停を行えばよい。

【0033】第1の内部バスに接続された第2のデータ転送装置と前記第1のデータ転送装置とを一体のモジュールとして構成することによって、限られたデータ転送チャンネルを相互に融通し合せて、使用することができる。

【0034】

【発明の実施の形態】図1には本発明に係るマイクロコンピュータの一例をブロック図で示す。同図に示されるマイクロコンピュータ1は、単結晶シリコンのような1個の半導体基板(1チップ)に形成された半導体集積回路とされる。

【0035】マイクロコンピュータ1は、中央処理装置(CPU)2、第2のデータ転送装置としてのDMAコントローラ(DMAC)3、第1のデータ転送装置としての外部バスDMAC(EXDMAC)4、リードオンリメモリ(ROM)5、ランダムアクセスメモリ(RAM)6、タイマ7、パルス出力回路8、シリアルコミュニケーションインタフェース(SCI)9、A/D変換器(A/D)10、割り込みコントローラ11、バスコントローラ12、クロック発振器(CPG)13、入出力ポート(IOP(A))21～入出力ポート(IOP(F))26、及び入出力ポート(IOP(1))31～入出力ポート(IOP(5))35の機能ブロック(モジュールとも称する)から構成される。

【0036】動作の主体となるのは前記CPU2であり、主に前記ROM5から命令を読込んで動作する。特に図示はしないが、CPU2は、命令をフェッチし、フェッチした命令を解釈して各部の制御信号を生成する命令制御ユニットと、前記命令制御ユニットからの制御信号に従ってアドレス演算やデータ演算などを行って命令を実行する演算実行ユニットとを有する。

【0037】前記DMAC3はCPU2とバスIAB、IDBを共有し、CPU2に代ってデータ転送制御を行うことができる。DMAC3はマイクロコンピュータ1の内部及び外部の何れに対しても、CPU2に代えて、データ転送制御を行うことができる回路モジュールとされる。

【0038】前記EXDMAC4は、専ら外部バス上でのデータ転送を制御し、CPU2又はDMAC3の内部バス上での動作に並行して、外部に対するデータ転送制御を行うことが可能とされる。このEXDMAC4は、マイクロコンピュータ1の外部に対するデータ転送制御だけが可能にされる。即ち、EXDMAC4は、マイクロコンピュータ1の外部に設けられるメモリ間のデータ

転送制御をデュアルアドレッシングモードで可能にされ、また、マイクロコンピュータ1の外部メモリとマイクロコンピュータ1の外部入出力回路との間のデータ転送制御をシングルアドレッシングモードで可能にされる。

【0039】前記EXDMAC4の詳細は後述するが、ここで概略を説明する。EXDMAC4に対するデータ転送制御条件などの設定はバスコントローラ12及びバスPDB、PABを介してCPU2が行う。EXDMAC4は、CPU2やDMAC3などのバスマスタモジュールによる外部アクセス要求と排他的に調停されて、バス権を取得する。EXDMAC4による外部データ転送制御のためのアドレス信号はバスEXABを介してIOP(A)21～IOP(C)23から外部に出力可能とされる。このとき、EXDMAC4によるデュアルアドレッシングモードのデータ転送において、転送データはEXDMAC4の内部に一時的に取り込まれず、IOPD24、IOPE25内部のラッチ回路に一時的に保持されるようになっている。

【0040】前記マイクロコンピュータ1の機能ブロックについて更に詳述する。前記マイクロコンピュータ1の機能ブロックは、内部バスによって相互に接続される。内部バスはアドレスバス、データバスの他に、図示が省略されたコントロールバスを有する。前記コントロールバスは、バス権要求信号、バスアクノレッジ信号、バスコマンド、外部バスコマンド、レディ信号、外部バスレディ信号、リード信号・ライト信号、バスサイズ信号、及びシステムクロック等を含む。IAB、PAB、EXABは内部アドレスバスであり、IDB、PDBは内部データバスである。これらのバスは、バスコントローラ12に接続されている。内部バスIAB、IDBはCPU2、DMAC3、ROM5、RAM6、バスコントローラ12に接続され、更に、内部アドレスバスIABは外部アドレス出力のためにIOP(A)21～IOP(C)23に接続され、内部データバスIDBは外部データ入出力のためにIOP(D)24、IOP(E)25に接続される。

【0041】前記内部バスPAB、PDBはバスコントローラ12、EXDMAC4、タイマ7、パルス出力回路8、SCI9、A/D変換器10、割り込みコントローラ11、IOP(A)21～IOP(F)26、及びIOP(1)31～IOP(5)35に接続される。

【0042】内部アドレスバスEXABは、EXDMAC4とバスコントローラ12、IOP(A)21～IOP(C)23に接続する。

【0043】バスコントローラ12は、アクセス先を判定し、バス仕様に従った動作を選択するために、アドレス信号を参照する。従って、バスコントローラ12は、エリアを判定する程度の上位アドレスビットをアドレスバスから入力するのみでよい。EXDMAC4による外部データ転送制御のためのアドレス出力はアドレスバス



EXABを介して行われる。

【0044】前記バスコントローラ12は、内部バスコントローラ120、外部バスコントローラ121、及びリフレッシュタイマ122などを持つ。マイクロコンピュータ1の外部へのアドレス出力はIOP(A)21～IOP(C)23を介して行われる。マイクロコンピュータ1の外部へのデータ入出力はIOP(D)24、IOP(E)25を介して行われる。

【0045】CPU2とDMAC3が、内部バスマスタとして、内部バスを使用することができ、それぞれのバス権要求信号に従って、バスコントローラ12の内部バスアービタ（内部バス調停回路）がバス使用要求を調停する。また、外部アクセスについては、CPU2やDMAC3による外部バスアクセス、EXDMAC4、マイクロコンピュータの外部からのバス権解放要求、リフレッシュタイマ122からのリフレッシュ要求の各バス権要求信号に従って、バスコントローラ12の外部バスアービタ（外部バス調停回路）が調停する。

【0046】ROM5、RAM6、及びタイマ7、パルス出力回路8、SCI9、A/D変換器10、IOP(A)21～IOP(F)26、及びIOP(1)31～IOP(5)35、割り込みコントローラ11の各機能ブロック及びEXDMAC4は内部バススレーブとして、CPU2またはDMAC3によってリード/ライトの対象される。EXDMAC4がバススレーブとしてアクセスされる場合とは、データ転送条件等がCPU2などによって設定される場合である。

【0047】割り込みコントローラ11は、タイマ7、SCI9、A/D変換器10、入出力ポートの出力する割り込み信号を入力し、CPU2に割り込み要求信号を、DMAC3に起動要求信号を出力する。また、DMAC3の出力するクリア信号を入力して、割り込みクリア信号を出力する。これらの割り込み信号などは図示はされていない。

【0048】前記入出力ポート21～26、31～36は、外部バス信号と入出力回路の入出力信号との入出力に兼用とされている。前記IOP(A)21～IOP(C)23はアドレスバス出力、IOP(D)24、IOP(E)25はデータバス入出力、IOP(F)26はバス制御信号入出力信号と兼用されている。外部アドレスバス、外部データバスは、それぞれ、これらの入出力ポートに含まれるバッファ回路を介してバスIAB、IDB、EXABと接続されている。バスPAB、PDBは入出力ポートのレジスタをリード/ライトするために使用し、外部バスとは直接の関係はない。バス制御信号出力は、アドレスストローブ、ハイ/ロウデータストローブ、リードストローブ、ライトストローブ、バスアクノリッジ信号などがある。バス制御入力信号にはウェイト信号、バスリクエスト信号などがある。これらの入出力信号は図示を省略してある。外部バス拡張を行うこ

とは、動作モードなどで選択され、これらの入出力ポートの機能も選択される。

【0049】また、IOP(1)31はタイマ入出力、IOP(2)32はパルス出力、IOP(3)33はSCI入出力、IOP(4)34はアナログ入力、IOP(5)35はEXDMAC4、DMAC3のための転送要求信号や転送アクノリッジ信号の入出力に兼用されている。EXDMAC4、DMAC3、タイマ7、SCI9、パルス出力8、A/D変換器10とIOP(1)31～IOP(5)35との入出力信号や内部割り込み要求信号などは図示はされない。

【0050】そのほか、電源端子Vcc、Vss、アナログ電源端子AVcc、AVss、リセット入力RES、スタンバイ入力STBY、割り込み入力NMI、クロック入力EXTAL、XTAL、動作モード入力MD0、MD1、MD2などの入力端子がある。

【0051】図2にはマイクロコンピュータ1の所定の動作モードのアドレスマップが例示されている。アドレス空間は、特に制限されないが、16Mバイトとされ、1バイト毎にアドレスが割り当てられている。

【0052】各機能ブロックは、接続するバスに拘らず、CPU2のアドレス空間上で、固有のアドレスを有する。なお、I/O（データ入出力手段）は、図1のタイマ7、DMAC33、EXDMAC4、パルス出力回路8、SCI9、A/D変換器10、IOP(A)21～IOP(F)26、IOP(1)31～IOP(5)35、及び割り込みコントローラの、夫々の内部I/Oレジスタを含む。

【0053】ROM5は、特に制限はされないものの、32kバイトとされ、アドレスH'200000～H'207FFFにマッピングされ、RAM6は2kバイトとされ、アドレスH'FFF700～H'FFFEFFにマッピングされ、I/OはアドレスH'FFFF00～H'FFFFFFにマッピングされている。なお、H'は16進数を示す。

【0054】これ以外のアドレスは、外部アドレス空間とされる。CPU2ベクタがアドレス空間の先頭に存在するので、この部分を含めて、外部にプログラム格納用のROMを接続することが必要である。

【0055】外部アドレス空間には、随時、プログラム格納用のROM、データ用のDRAMや、そのほかの回路(ASIC)などが接続される。外部アドレス空間は、2MB単位の8個のエリア0～7に分割され、それぞれのバス仕様を設定し、エリア選択信号を出力できる。それぞれのエリアに、異なるメモリを容易に接続できる。また、エリア2～5には、DRAMをアクセスするためのアドレスマルチプレクスや、高速ページモードを実行できるDRAMインタフェースを選択できる。かかるバス制御については、平成7年3月(株)日立製作所発行『H8S/2655シリーズ ハードウェアマニ



ュアル』に記載がある。

【0056】外部ROMに対して、内蔵ROM5は高速にアクセスし易い。また、内蔵ROM5の内容は、内部のCPU2やDMAC3によって読出されている限り、外部には出力されない。ROM5にマッピングされたアドレスのアクセスに対してバスコントローラ12はデータ入出力用のIOP(D)24、IOP(E)25を動作不可能な状態に保つからである。

【0057】内蔵ROM5がマスクROMの場合、その内容の変更は、マイクロコンピュータ1全体の変更を意味することになってしまい、変更が困難である。一方、内蔵ROM5が、フラッシュメモリのように電氣的に書き込み可能なROMである場合は、製造工程が複雑になるなど、費用が不所望に増大しやすい。一方、外部ROMは高速アクセスが困難であるが、その内容の変更は、その外部ROMのみの変更であり、外部ROMは汎用的なものであるから、安価である場合が多い。プログラムを変更すれば、プログラムの大きさが変わるから、CPUベクタも変更になる場合が多い。図2の、アドレスマップによれば、高速処理が必要で、変更を要する可能性が少ないプログラム、或はその内容を第3者に知られたくないプログラムなどを内蔵ROM5に格納するとともに、CPUベクタを含めた、全体的な処理を外部ROMに格納することによって、処理性能の向上と、使い勝手の向上、費用の低減などを図ることができる。

【0058】動作モードによって、内蔵ROM5のアドレスをCPUベクタを含むように、エリア0に変更できるようにするとよい。外部にプログラム格納用のROMを必要とせず、マイクロコンピュータシステムを構成することができる。

【0059】図3には前記マイクロコンピュータ1のバス構成が更に詳細に示されている。前述の通り、バスコントローラ12は、内部バスコントローラ(I-BS-C)、120、外部バスコントローラ(EX-BSC)121、リフレッシュタイマ122を含んでいる。また、I/O70には図1のタイマ7、パルス出力回路8、SCI9、A/D変換器10、IOP(A)21~IOP(F)26、IOP(1)31~IOP(5)35、割り込みコントローラ11の夫々における内部I/Oレジスタを含む。メモリ71はROM5及びRAM6を意味する。CPG13などの、バスと接続されていない機能ブロック或は回路モジュールは図示を省略してある。

【0060】外部バスバッファ回路(BUF)72は、前記IOP(A)21~IOP(F)26、IOP(5)35に含まれるアドレスバッファ及びデータバッファ等である。前記夫々のIOP(D)24~IOP(E)25にはデータバスのラッチ回路が設けられている。このラッチ回路は符号72Lで示した回路ブロックで代表されている。

【0061】前記内部バスIDB、IABは、CPU2及びDMAC3に直接接続されるバスである。RAM6やROM5などの内部メモリの高速アクセスのため、メモリ71もバスIDB、IABに接続されている。メモリ71のアクセスは1ステートで行われる。

【0062】前記内部バスPAB、PDBには、前記I/O70で代表される機能ブロックのレジスタが接続される。バスIAB、IDBとバスPAB、PDBとを分離することによって、CPU2のプログラムリードなどで、主として使用するバスIAB、IDBの負荷(容量性負荷)を軽減し、高速化を図るとともに、未使用時のバスPAB、PDBの状態を保持するなどして、低消費電力化を図ることができる。CPU2及びそのほかの内部バスマスタであるDMAC3が、バスPAB、PDBに接続されている前記I/O70で代表される機能ブロックのレジスタをアクセスする場合は、バスIAB、IDB及びバスコントローラ12を経由して行う。前記I/O70で代表される機能ブロックのレジスタのアクセスは2ステートで行われる。

【0063】CPU2又はDMAC3は、外部バスEABUS、EDBUSに接続される外部メモリ(図示を省略)などをアクセスする場合、バスIAB、IDBと外部バスバッファ(BUF)72とを経由して行う。

【0064】前記CPU2及びDMAC3は、排他的にバスIAB、IDBを使用する。このためには、CPU2及びDMAC3がバス権要求信号を出力し、これを内部バスコントローラ120の調停回路120Aが判定して、CPU2又はDMAC3の何れかにバス権を与える。CPU2又はDMAC3は、バス権が与えられたことを確認して、バスIABにアドレス信号を出力し、図示を省略する制御バスにバスコマンドを出力する。バスコマンドは、例えば、リード、ライト、アクセスデータサイズ(バイト、ワード、ロングワード)等を指示する制御コードである。

【0065】内部バスコントローラ120は、バスIABの内容を確認して、メモリ71へのアクセスであれば、バスIAB、IDBを使用したアクセス制御を行う。また、内部バスコントローラ120は、内部I/O70のレジスタへのアクセスであればバスPAB、PDBを介してI/O70のレジスタアクセスを制御する。

【0066】外部バスEDBUS、EABUSは、外部バスコントローラ121によって制御される。外部に例えばDRAMを接続する場合のアドレスマルチプレクスなどの制御も外部バスコントローラ121が行う。外部バスを使用できるバスマスタは、CPU2、DMAC3、EXDMAC4、リフレッシュタイマ122、そして図示を省略する外部バスマスタである。それらに対するバス権の調停は調停回路121Aが行う。CPU2及びDMAC3のような内部バスマスタは、一旦、内部バスコントローラ120でバス権が調停され、バス権が与

えられたとき、内部バスコントローラ120が外部バス権要求信号EXBREQ1によって外部バス権を外部バスコントローラ121に要求する。換言すれば、内部バスマスタCPU2、DMAC3が、内部バスを使用している限り、内部バスマスタから外部アクセスのための外部バス権要求は起こらない。したがって、外部バスコントローラ121は、内部バスマスタCPU2、DMAC3による内部バスの使用中であっても、これに並行して、リフレッシュタイマ122やEXDMAC4によるリフレッシュや外部バス転送、或いはマイクロコンピュータ1の外部からの外部バス権解放要求を並行に処理することができる。尚、外部バスコントローラ121は、バス権要求信号EXBREQ1によるバス権要求に対してバス権を与え、外部バス権アクノリッジ信号EXBACK1を内部バスコントローラ120に返す。

【0067】前記リフレッシュタイマ122は一定時間毎に、リフレッシュ要求信号RFREQによって外部バスコントローラ121にリフレッシュ要求を発生する。このリフレッシュ要求が外部バス権要求とも成される。リフレッシュタイマ122が外部バス権を獲得すると、外部バスコントローラ121は、DRAMのリフレッシュとして、CASビフォアRASリフレッシュを行う。

【0068】また、マイクロコンピュータ1の外部からの外部バス権要求信号EXBREQ3によって外部バスコントローラ121に外部バス権要求があったとき、これに対してバス権を与えると、外部バスコントローラ121は、IOP(A)21～IOP(F)26の外部アドレス出力、外部データ入出力、及び外部アクセス制御信号入出力をハイインピーダンス状態にし、外部のバスマスタによる外部バスの利用を可能にすると共に、外部バス権アクノリッジ信号EXBACK3を活性状態にし、これを外部のバス権要求元に通知する。

【0069】EXDMAC4は、バスPAB、PDBに接続され、CPU2やDMAC4などの内部バスマスタから転送制御条件等の初期設定などのためにリード/ライトされる。また、EXDMAC4は、外部から与えられるDMA転送要求信号EXDREQi(i=0～3)により、DMA転送制御動作を開始することになる。このようにしてDMA転送要求があると、EXDMAC4は、外部バスコントローラ121に、外部バス権要求信号EXBREQ2によって外部バス権を要求すると共に、外部バスコマンドを出力し、更に、アドレスバスEXABを介して外部アクセスアドレス信号を発行する。その外部バス要求に対して外部バスコントローラ121がバス権を認める場合、バスコントローラ121は、EXDMAC4に外部バスアクノリッジ信号EXBACK2をアサートする。これによって、EXDMAC4は外部バスアクセスを開始する。

【0070】IOP(D)24～IOP(E)25の外部バスバッファは前記ラッチ回路72Lを含んでおり、

EXDMAC4のデュアルアドレス転送制御時に、外部バスコントローラ121の指示によって、転送データを一時保持する。また、シングルアドレス転送時には、データ転送開始を意味するデータアクノリッジ信号EXDACKiをデータ転送先或いはデータ転送元とされる入出力回路に出力する。

【0071】機能ブロックの分割の方法については、特に制限はされず、例えばEXDMAC4と外部バスコントローラ121を一体のものとしてもよい。

【0072】図4に内部バスコントローラ120に含まれるアドレスデコード回路の一例を示す。アドレスデコード回路120Dは、CPU2やDMAC3が内部バスIABに出力するアドレス信号をデコードして、ROM5、RAM6、I/O、外部空間のアドレス判定を行う。信号MSROMはROM5のモジュールセレクト信号、MSRAMはRAM6のモジュールセレクト信号、MSIOはI/Oモジュールのセレクト信号、EXTAはマイクロコンピュータ1の外部空間のモジュールセレクト信号である。

【0073】ROM5は、前記の通り、マイクロコンピュータ1の動作モードによって、図2に示されるエリア0又はエリア1の何れかに配置可能になっている。動作モード又は内部I/Oレジスタの指定によって、信号ROMEを“0”とすることによって、ROM5を使用しないこともできる。

【0074】I/Oが選択された場合(MSIO=1)は、バスPAB、PDBを用いるバスアクセスが起動され、外部が選択された場合(EXTA=1)、当該信号は、外部バスコントローラ121に外部バス権要求信号EXBREQ1として供給される。

【0075】図5にはEXDMAC4のレジスタ構成が例示されている。EXDMAC4は、例えば4チャンネルを有し、それぞれ、対応する外部リクエストEXDREQi(i=0～3)によって起動され、シングルアドレス転送、デュアルアドレス転送を行う。図5では1チャンネル分のレジスタ構成が例示されている。

【0076】EXDMAC4のレジスタには、24ビット構成の、ソースアドレスレジスタ(SAR)40、デスティネーションアドレスレジスタ(DAR)41、及び16ビット構成のモードレジスタ(DTMR)42から成る。前記SAR40、DAR41は24ビット長であり、16Mバイトのアドレス空間全領域を指定できる。EXDMAC4は、所謂転送カウントレジスタは持っていない。SAR40またはDAR41で兼用される。即ち、データ転送制御の進行にしたがってSAR40、DAR41の値をインクリメント、又はデクリメントして更新していく。

【0077】DTMR42の各ビットの機能は次の通りである。ビット15はEDTEビットであり、当該チャンネルのEXDMAC4の動作を許可する。EDTEビッ

トが“1”にセットされた状態で、EXDREQ<sub>i</sub>によって転送要求があると、当該チャネルのデータ転送が行われる。

【0078】ビット14は、DRQSビットであり、EXDREQ<sub>i</sub>信号の活性状態を定義する。前記DRQSビットが入力を選択を行う。“0”にクリアされているとき、ロウレベルセンス、“1”にセットされているとき、立ち下がりエッジセンスが選択される。

【0079】ビット13はEDEフラグであり、転送チャネルにより所定回数のデータ転送が終了したときに“1”にセットされる。

【0080】ビット12はEDIEビットであり、割り込みを許可するか否かを決定するビットとされる。EDIEビット、EDEフラグがいずれも“1”にセットされたとき、CPU2に割り込みが要求される。EDIEビットが“1”にセットされた状態で、EDEフラグが“1”にセットされると、同時にEDTEビットが“0”にクリアされ、当該チャネルの動作は中断され、CPU2による処理を待つ。

【0081】EXDMAC4は転送対象とされるメモリをリングバッファとして利用できるようになっている。すなわち、リングバッファを用いる場合には、転送先又は転送元アドレスを自動的に初期値に回復する（所定ビット以下のビットを“0”にクリアする）ようになっているから、CPU2の処理は必要ない。EDIEビットを“0”にクリアしておけば、メモリをリングバッファとして利用できる。ビット10～8はRPB2～RPB0ビットであり、リングバッファのサイズ、即ちリピートする単位を指定する。リピートする単位は、64kB（RPB2～RPB0=B'000）、128kB（RPB2～RPB0=B'001）、256kB（RPB2～RPB0=B'010）、512kB（RPB2～RPB0=B'011）、1MB（RPB2～RPB0=B'100）、2MB（RPB2～RPB0=B'101）である。データ転送制御の進行にしたがってアドレス演算器でSAR40、DAR41の値をインクリメントして更新していくとき、RPB2～RPB0ビットは、その値にしたがって、アドレス演算器に、SAR40、DAR41のビット15、16、17、18、19、20からのキャリ／ボローの伝達を禁止する。キャリ／ボローの伝達が禁止されると、そのとき、禁止されたビットより下位のビットも0にされているから、アドレスは自動的に初期値に戻される。これにより、EXDMAC4は、自動的にリングバッファを構成する如くデータ転送アドレスを制御することができる。

【0082】ビット7、ビット6は、SM1、SM0ビットであり、データ転送後にSAR40をインクリメントするか、デクリメントするか、固定にするかを指定する。SM1ビットを“0”にクリアすると、SAR40は固定とされる。SM1ビットを“1”にセットした状

態で、SM0ビットを“0”にクリアすると、インクリメント、SM0ビットを“1”にセットすると、デクリメントが行なわれる。

【0083】ビット5、ビット4は、DM1、DM0ビットであり、データ転送後にDAR41をインクリメントするか、デクリメントするか、固定にするかを指定する。DM1ビットを“0”にクリアすると、DAR41は固定とされる。DM1ビットを“1”にセットした状態で、DM0ビットを“0”にクリアすると、インクリメント、DM0ビットを“1”にセットすると、デクリメントが行なわれる。

【0084】ビット3、ビット2は、MD1、MD0ビットであり、データ転送モードを選択する。MD1ビットを“0”にクリアすると、デュアルアドレスモードとなる。デュアルアドレスモードでは、1回の起動で、SAR40で示されるアドレスから、DAR41で示されるアドレスへ、1回のデータ転送を行なう。この後、SM1、SM0、DM1、DM0ビットの指定に基づいて、SAR40、DAR41の操作が行なわれる。

【0085】MD0ビットが“0”にクリアされている場合は、SAR40が転送カウント機能を兼用する。SAR40の所定のビットからキャリが発生したときに、所定回数の転送終了と判断され、転送終了フラグEDEが“1”にセットされる。

【0086】MD0ビットが“1”にセットされている場合は、DARが転送カウント機能を兼用する。

【0087】MD1ビットを“1”にセットすると、シングルアドレスアドレスモードとなる。シングルアドレスアドレスモードでは、転送元または転送先的一方をアクノレッジ信号EXDACK<sub>i</sub>で指定する。

【0088】MD0ビットが“0”にクリアされている場合は、転送先をアクノレッジ信号EXDACK<sub>i</sub>で指定し、SAR40が転送元のアドレスを指定するとともに、転送カウント機能を兼用する。

【0089】MD0ビットが“1”にセットされている場合は、転送元をアクノレッジ信号EXDACK<sub>i</sub>で指定し、SAR40が転送先のアドレスを指定するとともに、転送カウント機能を兼用する。

【0090】いずれも、SAR40またはDAR41のRPB2～RPB0ビットによって指定される所定のビットからキャリ／ボローが発生したときに、所定回数の転送終了と判断され、転送終了フラグEDEが“1”にセットされる。

【0091】ビット0はSZビットであり、1回のデータ転送をバイトサイズで行なうか、ワードサイズで行なうかを選択する。SZビットを“0”にクリアするとバイトサイズ、“1”にセットするとワードサイズのデータ転送が行なわれる。なお、ワードサイズは2バイトである。

【0092】図6にはEXDMAC4のブロック図が示

される。EXDMAC4は、外部から起動要求信号EXDREQ $i$  ( $i=0\sim3$ )を入力する。また、EXDMAC4は、外部バスコントローラ121に対して、外部バス権要求EXBREQ2、外部バスコマンドの発生とアドレスの出力を行い、外部バスコントローラ121から外部バス権アクノレッジ信号EXBACK2、外部バスレディ信号EXBRDYを入力して動作する。シングルアドレス転送時に使用するEXDACK $i$ は、外部バスコマンドで指示される。外部バスレディ信号EXBRDYのネゲートされた状態は、外部バスコントローラ121からEXDMAC4に対するウェイトステート挿入の要求として把握することができる。外部バスコントローラ121から内部バスコントローラ120へのEXBRDYも同様にウェイト挿入の要求として把握することができる。

【0093】更に、マイクロコンピュータ1内部のバスインタフェースとして、CPU2やDMAC3のリード/ライトのために、内部バスコントローラ120から、モジュールセレクト信号、リード信号、ライト信号が入力され、アドレスバスPAB及びデータバスPDBに接続される。

【0094】通常のDMAC3は、デュアルアドレスモードの場合、リードしたデータを一旦、DMAC3に格納し、これをライトする。これに対して、EXDMAC4は、この機能を入出力ポートに代替させ、IOP(D)24、IOP(E)25のラッチ回路72Lにデータの一時保持機能を持たせてある。マイクロコンピュータの動作を高速にするに従い、パイプライン的な動作が必要になり、DMAC3自らがバス権を持ったデータ転送のためのリード/ライト動作と、DMAC3に対するCPU2によるデータ転送制御条件の設定のためのリード/ライト動作とが、連続した場合、DMAC3はバスマスタとしての動作とバススレーブとしての動作の遷移が困難になったり、所定のステート内に動作が完結できなかったり、不都合な動作を起こす可能性が大きくなる。この点に対し、EXDMAC4はその不都合を本質的に回避でき、論理的な規模を縮小したり、設計期間を短縮したりできる。また、EXDMAC4によるデータ転送制御途上においても、CPU2は内部バスを用いたアクセス動作を行うことができるので、CPU2によるEXDMAC4内部のレジスタリードを任意のタイミングで行うことができる。したがって、CPU2からEXDMAC4の状態を簡単にモニタできる。

【0095】また、EXDMAC4は、CPU2と独立したデータ転送を行うことを目的としているが、このとき、デュアルアドレッシングモードなどにおいて、リードデータの一時保持を自モジュールで行おうとすると、専用のデータバスを設ける必要が生じてしまう。EXDMAC4では、かかる専用のデータバスを不要にし、この点でも物理的規模を小さくできる。

【0096】図6に従えば、EXDMAC4は以下の回路ブロックで構成される。EXDMAC4は、前記DTMR42、DAR41、SAR40のレジスタを夫々4チャンネル分備え、各チャンネルに共通の制御回路45、データバッファ(DB)44、アドレスバッファ(AB)46、及び算術演算回路(AU)43を有する。これらのブロックは、Aバス、Bバスの2本の内部バスによって結合されている。

【0097】制御回路45は、起動要求信号EXDREQ $i$  ( $i=0\sim3$ )を検出して動作を開始し、外部バス権要求EXBREQ2、外部バスコマンド及びアドレスを出力すると共に、外部バス権アクノレッジEXBACK2、外部バスレディ信号EXBRDYを入力しつつ、外部バスの動作を行う。一方、モジュールセレクト信号、リード信号、ライト信号、アドレスバスPAB上のアドレス下位ビット、データバスPDBの値に従った、内部レジスタの入出力を行う。

【0098】前記アドレスバッファ46は、外部アドレス空間が16Mバイトであるのに対応して、24ビット構成であり、Aバスからデータを入力し、リード/ライトするアドレスを保持して、EXABに出力する。

【0099】前記データバッファ44は16ビット構成であり、データバスPDBと接続され、CPU2がEXDMAC4内部のレジスタをリード/ライトする際のデータの入出力を行う。SAR40、DAR41が24ビット構成であるため、CPU2からは2回に分けてアクセスされるが、このとき、EXDMAC4内部では1回のリード/ライトとし、不都合な動作を行わないようにしている。

【0100】前記DTMR42、DAR41、及びSAR40の各レジスタの機能は前述の通りであり、Bバスからデータを入力して、Aバスに出力する。前記算術演算回路(AU)43はインクリメント/デクリメント処理を行なう。入力Aバスであり、結果はBバスに出力される。

【0101】図7にはEXDMAC4の状態遷移図が示される。EXDMAC4は、ステートI(アイドル状態)、ステートS(ソース転送状態)、ステートD(デスティネーション転送状態)の3つの状態を持つ。

【0102】リセット後には、ステートIに遷移する。ステートIでは、EXDMAC4の起動要求信号EXDREQ $i$  ( $i=0\sim3$ )をサンプリングする。何れかのチャンネルのEDTEビットが1にセットされると、当該チャンネルのEXDREQ $i$ 入力を検出する。複数のチャンネルが起動された場合は、チャンネル0から優先して動作を行う。

【0103】EXDREQ $i$ がイネーブルにされると、ステートSに遷移する。ステートSでは、当該チャンネルのSAR40の内容をEXABに出力し、SM1、SM0ビットに従ってSAR40の内容を更新するととも

に、外部バスリクエストEXBREQ2とバスコマンドを外部バスコントローラ121に出力する。

【0104】外部バスコントローラ121は、外部バスリクエストを調停して、所定のタイミングで、EXDMAC4に外部バス権を与えるために、アクノレッジ信号EXACK2を活性状態にし、外部バスを起動する。外部バスが終了すると、外部バスレディ信号EXBRDYは活性状態にされる。これにより、EXDMAC4はそのバスサイクルを終了できる。

【0105】シングルアドレスモードでは、EXDMAC4は、バスアクノレッジ信号EXBACK2が活性状態で、外部バスレディEXBRDYを検出すると、動作を終了し、ステートIに遷移する。

【0106】デュアルアドレスモードでは、アクノレッジ信号が活性状態で、外部バスレディを検出すると、ステートDに遷移する。ステートDでは、当該チャネルのDAR41の内容をアドレスバスEXABに出力し、SM1、SM0ビットに従ってDAR41の内容を更新するとともに、外部バスリクエストEXBREQiとバスコマンドを外部バスコントローラ121に出力する。

【0107】外部バスコントローラ121は、外部バスを起動する。外部バスが終了すると、外部バスレディ信号EXBRDYを活性状態にする。EXDMAC4は、バスアクノレッジ信号EXBACK2が活性状態で、外部バスレディEXBRDYを検出すると、そのアクセスサイクルを終了し、ステートIに遷移する。

【0108】尚、シングルアドレスモードの場合は、ステートSのバスコマンドの中で、転送アクノレッジ信号EXDACKiを活性状態にするように指示する。デュアルアドレスモードの場合は、ステートSのバスコマンドの中で、リード後バス権を移譲しない指示と、リードデータをIOP(D)24、IOP(E)25のラッチ回路に一時的に保持させる指示を与える。

【0109】専用の外部アドレスバスEXABを用いており、バス権の獲得の判定などを行い、これを確認してからバスコマンドとアドレスを出力したりする必要がなく、状態遷移も簡潔に構成でき、論理的規模を抑制できる。

【0110】図8には前記マイクロコンピュータをプリンタ制御に用いたマイクロコンピュータシステムの一例が示される。

【0111】プリンタ制御システムは、マイクロコンピュータ1及びセントロニクスインタフェースやユニバーサルシリアルバス(USB)又はオプションなどの受信回路100、DRAMで構成されたバッファRAM101、キャラクタジェネレートROM(CGROM)102、プログラムROM103、印字制御回路104を含み、これらがマイクロコンピュータ1の外部バス105を介して接続される。

【0112】前記プログラムROM103はエリア0

に、バッファRAM101はエリア2に、CGROM102はエリア6に、受信回路100及び印字制御回路104はエリア7に割り当てられている。バッファRAM101にはリード/ライト可能なメモリとして、リフレッシュ動作が必要であるが、安価であることが知られているDRAMが用いられる。図8において、バッファRAM101についてはそのアドレス配置が図示されている。この例に従えば、バッファRAM101は2MB(16Mビット)の記憶容量を有し、その内の1MバイトをCPU2の作業領域に、残りを512kBずつリングバッファとして利用される。

【0113】図8のシステムでは、更に、印字ヘッド106、バッファ回路107、ラインフィードモータ108、キャリッジリターンモータ109を含み、これらのモータ108、109は、それぞれマイクロコンピュータ1の前記タイマ7の出力、前記パルス出力装置8の出力によって制御される。ラインフィードモータ108、キャリッジリターンモータ109は、特に制限はされないが、ステッピングモータである。

【0114】図示はされないものの、前記マイクロコンピュータ1のSCI9はホスト装置などとの通信に使用され、前記A/D変換器10は紙枚数などのセンサ情報を入力する。

【0115】EXDMAC4はセントロニクスインタフェースやユニバーサルシリアルバスなどの複数の受信回路100によるデータの受信を、CPU2の動作と並行して行う。マイクロコンピュータ1は、転送要求信号EXDREQiを入力し、転送アクノレッジ信号EXDACKiによってシングルアドレス転送を行うことができる。例えば、セントロニクスインタフェースのインプットストロープ信号をEXDREQ0に入力し、チャネル0でデュアルアドレス転送を行い、オプションインタフェースの受信信号をEXREQ1に入力し、EXDACK1出力を、オプションインタフェースに与えて、チャネル1でシングルアドレス転送を行う。

【0116】内部のDMAC3は、印字データの出力、ラインフィードモータ108、キャリッジリターンモータ109を駆動するためにパルスデータの出力を行う。また、SCI9の送信データ、受信データの転送を行なう。このようなDMAC3の使用方法については、前記特開平5-307516号公報に記載されている。

【0117】なお、半導体集積回路の集積度の向上によって、オプション以外の受信回路100の一部や、印字制御回路104などを1チップのマイクロコンピュータに集積することができる。更に、バッファRAM101などの汎用的なメモリも1チップのマイクロコンピュータに集積することができる。プログラムROM103やCGROM102等のように、個別のプリンタ機種など、マイクロコンピュータシステム毎に変更になるものは、個別の半導体集積回路にする方が都合がよい。い

れの部分を1チップのマイクロコンピュータに搭載するにせよ、バスの論理的な構成が上記と変らなければよい。

【0118】図9には図8のマイクロコンピュータシステムのバスの動作タイミングの1例が示される。

【0119】内部バスIAB、IDBは、大部分が、CPU2のROM5からのプログラムリードとRAM6へのデータリード/ライトを1ステートで行っている。この中で、CPU2はT3からPバスPAB、PDBを用いた内部I/Oレジスタ(例えば、A/D変換器)のリード、T12から外部メモリ(例えば、CGROM)のリードを行う。PバスPAB、PDBに接続された回路はRAM6やROM5よりもアクセス速度が遅いので、バスレディー信号BRDYがバスコントローラ120により供給される。

【0120】DMAC3は、T7から、メモリから内部I/Oレジスタ(例えば、RAM6からバルス出力回路8)への転送を行う。

【0121】一方、EXDMAC4は、チャンネル0がデュアルアドレス転送、チャンネル1がシングルアドレス転送とされ、T0でチャンネル0が起動され、T7、T14でチャンネル1が起動される。なお、起動要求信号EXDREQ<sub>i</sub>(<sub>i</sub>=0~3)は、重ねて表示しており、例えば、ch0と記載のある部分が、EXDREQ0が活性状態になったことを示す。

【0122】T0で、EXDMAC4は、EXDREQ0が活性状態になったのに応じて、ステートSに遷移し、外部バス権要求と外部バスコマンドを発生し、EXABを出力する。外部バスコマンドは、リードとリード後のバス権移譲禁止、リードデータのラッチなどを指示する。外部バスコントローラ121は外部バス権を調停し、EXBACK2により、直ちに、EXDMAC4に外部バス権を与えて、外部バスを起動する。外部バスコントローラ121は、一旦、バスレディー信号EXBRDYを非活性状態にして、EXDMAC4にウェイトサイクルを挿入させる。

【0123】外部バスコントローラ121から出力されているバスレディー信号EXBRDYが活性状態に戻されると、EXDMAC4はそのメモリサイクルを終えて、ステートDに遷移し、次の外部バス権要求と外部バスコマンドを発生し、バスEXABにアドレスを出力する。外部バスコマンドは、ライトと、ラッチしたデータの出力などを指示する。外部バスコントローラ121は外部バスを起動する。上記同様に、外部バスコントローラ121は、一旦、EXBRDYを非活性状態にして、EXDMAC4にウェイトサイクルを挿入させる。

【0124】EXBRDYが活性状態になると、EXDMAC4は、そのメモリサイクルを終え、ステートIに遷移し、待機状態に戻る。

【0125】T7で、EXDREQ1が活性状態になっ

たのに応じて、EXDMAC4はステートSに遷移し、外部バス権要求と外部バスコマンドを発生し、EXABを出力する。外部バスコマンドは、リードとEXDACK1の出力などを外部バスコントローラ121に指示する。外部バスコントローラ121は外部バス権を調停し、直ちに、EXBACK2によりEXDMAC4に外部バス権を与えて、外部バスを起動する。上記同様に、一旦EXBRDYを非活性状態にして、EXDMAC4にウェイトサイクルを挿入させる。外部バスコントローラ121は、DRAMエリアのアクセスを判断して、プリチャージ、RAS、CASサイクルを含む4ステートでアクセスする。EXBRDYが活性状態になると、EXDMAC4はステートIに遷移し、待機状態に戻る。

【0126】更に、T14で、EXDREQ1が活性状態になったのに応じて、EXDMAC4はステートSに遷移し、外部バス権要求と外部バスコマンドを発生し、EXABを出力する。外部バスコマンドは、リードとEXDACK1の出力などを指示する。このとき、外部バスコントローラ121は外部バス権を調停するが、CPU2による外部リード実行中のため、EXDMAC4に外部バス権を与えず、CPU2による外部リードの終了を待つ。T17でEXDMAC4に外部バス権を与えて、外部バスを起動する。一旦、上記同様バスコントローラ121はバスレディー信号EXBRDYを非活性状態にして、EXDMAC4にウェイトサイクルの挿入を要求する。EXBRDYが活性状態になると、EXDMAC4はステートIに遷移し、待機状態に戻る。

【0127】DTMR1では、DTIE=0、RPB2~0=B'011、SM1、0=B'10とされ、512kB単位の繰返し動作が設定されているものとし、T9でSARをインクリメントしたとき、H'5FFFFFからH'580000に更新され、動作を継続する。即ち、H'580000~H'5FFFFFFFのバッファRAM101上のリングバッファを構成している。CPU2は、SAR40をリードすることで、リングバッファの入力ポイントを得ることができる。入力ポイントを参照しつつ、リングバッファに蓄積されているデータ量が適正になるように、リングバッファのリードを行うことが容易になる。

【0128】また、EXDMAC4は、停止せずに動作を継続するから、再起動時に起動要求信号を、不所望に検出したり、検出できなかったりすることがない。

【0129】CPU2が外部バスを使用したリード/ライトとEXDMAC4による外部バス転送が同時に要求される場合、CPU2かEXDMAC4の何れかが一旦停止状態になるが、CPU2のデータアクセス頻度は低く、またCPU2は連続的にアクセスを行う場合は少なく、EXDMAC4もデータ転送を連続的には行わないから、CPU2やEXDMAC4が長期間停止状態にな

ることを回避できる。少なくとも、CPU2がROM5上でプログラムを実行することと、EXDMAC4による外部バス転送とを並列して行うことができる。換言すれば、CPU2の処理性能を低下させることなく、外部バス転送を行うことができる。また、DMAC3による内部バスによる転送と並行してEXDMAC4による外部でのデータ転送を行うことができる。

【0130】なお、内部バス権要求や内部バス権アクノレッジ信号を、クロックやバスレディ信号に同期させるなどして、CPU2とDMAC3との間のバス権の移譲をオーバーヘッド無く行うことができる。同様にCPU2またはDMAC3の外部アクセスとEXDMAC4との間のバス権の移譲についてもオーバーヘッドなく行うことができる。

【0131】図10には前記汎用のDMAC3とEXDMAC4との双方の機能を有する外部バスDMAC4Aのブロック図が示される。

【0132】データ転送チャネルは0~7とし、それぞれ、制御レジスタとしてのDTMR42、SAR40、DAR41、2組の転送カウンタTCR47A、BTCR47Bを有する。算術演算器43Aにシフト47Cが付加され、内部バスはAバス、Bバス、Cバスの3種類とされている。

【0133】図10の例では、図6と同様に、外部バスコントローラ121に対するインタフェース、CPU2等とのインタフェースに加えて、内部バスコントローラ120に対するインタフェースとして、内部バス権要求信号、内部バスコマンド、IAB出力と、内部バス権アクノレッジ、内部バスレディ入力、IDB入出力が加えられている。

【0134】DTMR42のEDTEビットを"1"にセットすると、外部バスコントローラ121に対して、外部バス権要求や外部バスコマンドを出力したりして、外部バス上の転送を、CPU2の内部バス上のプログラム実行と並行して行うことができる。

【0135】一方、DTMR42の、図示はされないIDTEビットを"1"にセットすると、内部バスコントローラ120に対して、内部バス権要求や内部バスコマンドを出力したりして、内部バス(Iバス)を使用して任意のアドレス間の転送を、CPU2の動作と排他的に行うことができる。

【0136】図10の構成によれば、8チャネルなどの、限定されたチャネルを相互に融通し合って、使用することができる。外部バスDMAC4Aとしての外部バス転送を2チャネルと、内部バスを使用した転送を6チャネルなどとすることができる。また、算術演算器やバスインタフェースのような論理を共通に利用することができる。複数の起動要求が発生した場合には、外部バス転送の優先順位を高くし、CPU2との並列動作が有効になるようにするとよい。

【0137】更に、外部バス転送の制御回路と、内部バス転送の制御回路とを別に持ち、それぞれの算術演算器とバスを別に持てば、外部バス転送と内部バス転送とを並列して動作することも可能になる。

【0138】シングルアドレスモードを選択したときは外部バス転送、デュアルアドレスモードを選択したときは内部バスによる転送、などとし、これに従って選択可能な起動要因を限定すれば、使い勝手をさほど低下させずに、制御ビットを節約することができる。

【0139】以上説明した実施の態様によれば以下の作用効果を得るものである。

【0140】〔1〕マイクロコンピュータ1の内部バスの制御と外部バスの制御とを独立にし、内部バスを用いたCPU2の動作と、EXDMAC4による外部バスを用いて行うデータ転送とを独立に行うことにより、マイクロコンピュータ1の処理性能を向上することができる。

【0141】〔2〕外部バスコントローラ121に、アドレス空間を分割して、メモリの種類やバス幅、アクセスステート数などのバス仕様を設定可能にし、CPU2そのほかの内部バスマスタDMAC3による外部バスアクセスとEXDMAC4による外部アクセスを、外部バスコントローラ121によって一括して制御することによって、内部バスを使用しないEXDMAC4についても、CPU2、DMAC3と同様の外部バスアクセスを可能にし、論理的規模の増加を縮小できる。

【0142】〔3〕外部バスコントローラ121が出力するアドレスやバスコマンドなどをバスEXABを介して伝達される専用の信号とすることにより、外部バスDMACの制御信号や状態遷移などを動作を簡潔にし、論理的規模を縮小できる。

【0143】〔4〕外部バスコントローラ121により、CPU2、DMAC3による外部バスアクセスとEXDMAC4、或はそのほかの外部バス権要求とを調停することによって、CPU2、DMAC3による外部バスアクセスとEXDMAC4との間の外部バス権移譲時のオーバーヘッドをなくすことができ、さらに処理性能を向上できる。

【0144】〔5〕CPU2のプログラム格納用の内蔵ROM5を、CPU2のベクタを含まないように、動作モードなどで選択可能にすることにより、全体的な処理プログラムを外部のROMに、高速処理が必要なプログラムなどを内蔵ROM5に格納することができ、プログラムの変更に対する柔軟性など使い勝手を向上することができる。

【0145】〔6〕EXDMAC4は、複数のチャネルを有し、それぞれのチャネルが独立の外部転送要求入力を持つことにより、使い勝手を向上し、処理性能を向上することができる。シングルアドレス転送をサポートすることにより、転送に必要なバスサイクルを減少し、更



に処理性能を向上できる。

【0146】〔7〕EXDMAC4は、受信回路100からバッファRAM101のような、外部バス転送に適した機能とすることにより、論理的規模を縮小できる。転送カウンタをアドレスカウンタと兼用して、レジスタ数を減らしたり、転送データの一時保持など、入出力ポートなどのラッチ回路72Lで行うことにより、EXDMAC4へのデータバスを不要としたりして、物理的な規模を縮小できる。また、CPU2、DMAC3からのアクセスと、EXDMAC4自体のデータ転送との競合動作を、本質的に回避して、論理構成を更に簡潔にし、また、開発期間などの短縮も図れる。

【0147】〔8〕転送元／転送先のアドレスレジスタ40、41の所定ビットから上位のビットを固定にして、繰返し動作を可能にし、CPU2の負荷なく、前記バッファRAM101上などに、容易にリングバッファを構成できる。バッファの開始アドレスや終了アドレスを任意に指定できなくとも、バッファRAM101のような大容量のメモリにあっては、大きな不都合は生じない。CPU2は、随時EXDMAC4の内容をリード／ライトできるから、リングバッファ上に蓄積されたデータ量の管理などを容易にすることができる。繰返し動作可能とすることによって、CPU2の割り込み処理のような負荷をなくすることができる。

【0148】〔9〕内部バスに接続されたDMAC3による内部バス上の転送と、EXDMAC4による外部バスを用いて行うデータ転送とを独立に行うことにより、マイクロコンピュータ1の処理性能を向上することができる。プリンタなどのマイクロコンピュータシステムにおいて、モータ駆動のためなどのDMAC3による内部バス上の転送と、受信回路100のバッファRAM101への転送などの外部バスを用いて行う転送を同時に行うことを可能にして、マイクロコンピュータシステムの処理性能を向上できる。

【0149】〔10〕マイクロコンピュータ1と受信回路100などを同一の半導体集積回路として実現することにより、システムの小型化などを図ることができる。

【0150】〔11〕内部バスに接続されたDMAC3と、外部バス転送に適した機能のみを有する外部バスコントローラ121を内蔵することにより、全体的なチャネル数を増加させながら、論理的規模の増加を最小限にすることができる。また、内部バスに接続されたDMAC3は汎用的な機能を持つことにより、使い勝手を低下させることがない。

【0151】〔12〕内部バスに接続されたDMAC3と、EXDMAC4を一体のモジュールとして構成することによって、限定されたチャネルを相互に融通し合せて、使用することができる。また、バスインタフェースのような論理を共通に利用することができる。

【0152】以上本発明者によってなされた発明は、上

記実施の態様の記載に限定されるものではなく、その要旨を逸脱しない範囲において種々変更可能である。

【0153】例えば、DMAC3、4のアドレスレジスタのビット数は24ビットに限定されない。そのアドレスビット数はCPUまたは半導体集積回路装置のアドレス空間に応じて、変更できる。例えば、4Gバイトのアドレス空間であれば、32ビットとすればよい。

【0154】第1のデータ転送装置における転送モードなども種々変更可能である。リングバッファの容量についても変更可能である。リングバッファの容量を指定する別のレジスタを持ってもよい。或は、転送カウンタを独立にもつてもよい。シングルアドレスモードのみに限定して、アドレスレジスタを1本とすることも可能である。

【0155】マイクロコンピュータの構成についても限定されない。そのほかや機能ブロックを内蔵することも可能である。DMACの他に、内部バスに接続された、データトランスファコントローラのような、別のデータ転送装置を内蔵してもよい。データトランスファコントローラについては、平成7年3月(株)日立製作所発行『H8S/2655シリーズ ハードウェアマニュアル』などに記載されている。

【0156】また、EXDMACやバスコントローラ、内部バスの構成など、具体的な回路構成についても種々変更可能である。IAB、IDBのような内部バスとPAB、PDBのような内部バスとを一体に構成することもできる。

【0157】マイクロコンピュータシステムは、プリンタに限定されない。例えば、デジタル通信システムなどに用いることができる。受信回路からバッファRAMへ転送し、復調や誤り訂正などを行い、更に変調を行って、別のバッファRAMに格納し、バッファRAMから送信回路へ転送する場合など、受信回路からバッファRAMへの転送、バッファRAMから送信回路への転送に、EXDMACを使用し、そのほかのCPUなどのプロセッサの処理と並行して、外部データ転送制御を可能にし、処理性能を向上できる。

【0158】以上の説明では主として本発明者によってなされた発明をその背景となった利用分野であるROM内蔵マイクロコンピュータに適用した場合について説明したが、それに限定されるものではなく、ROMを内蔵しないマイクロコンピュータ、デジタルシグナルプロセッサ(DSP)を中心にしたマイクロコンピュータにも適用可能であり、本発明は少なくとも、データ処理装置とデータ転送装置を内蔵した条件のものに適用することができる。

【0159】

【発明の効果】本願において開示される発明のうち代表的なものによって得られる効果を簡単に説明すれば下記の通りである。

【0160】すなわち、第1のデータ転送装置による外部バス上のデータ転送と、CPUによる内部バスを用いた命令実行等とを並列に動作可能なようにバスとバスコントローラを構成することによって、マイクロコンピュータの処理性能を向上し、使い勝手を向上すると共に、論理的・物理的規模を最小限にすることができる。

【0161】DMACのようなデータ転送装置を内蔵したマイクロコンピュータによるデータ処理のトータル性能を向上させることができる。

【0162】上記マイクロコンピュータを適用したマイクロコンピュータシステムは、外部との間のデータ転送制御及びマイクロコンピュータ内部の演算処理を並列的に処理可能であって、しかも処理のオーバーヘッドが少なく、物理的な規模の増大も最小限とすることができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明に係るマイクロコンピュータの一例を示すブロック図である。

【図2】図1のマイクロコンピュータにおけるアドレスマップの一例を示す説明図である。

【図3】図1のマイクロコンピュータをバス構成を主眼に示したブロック図である。

【図4】バスコントローラに含まれるアドレスデコーダの一例を示すブロック図である。

【図5】外部バスDMACのレジスタ構成の一例を示すブロック図である。

【図6】外部バスDMACの全体を示すブロック図である。

【図7】外部バスDMACの状態遷移図である。

【図8】図1のマイクロコンピュータを適用したシステムの一例を示すブロック図である。

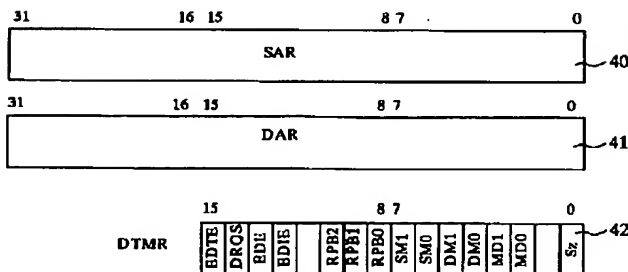
【図9】マイクロコンピュータの動作タイミングの一例を示すタイミングチャートである。

【図10】外部バスDMACの別の例を示すブロック図である。

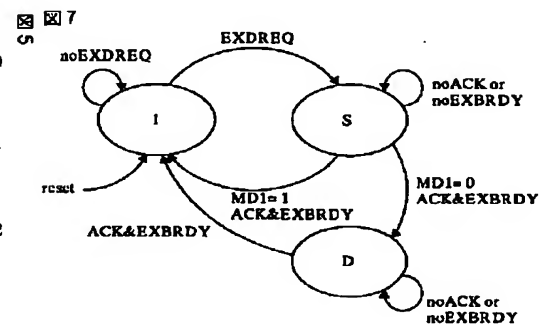
【符号の説明】

- 1 マイクロコンピュータ
- 2 中央処理装置
- 3 DMAC
- 4 EXDMAC
- 5 ROM
- 6 RAM
- IDB, PDB 内部データバス
- IAB, PAB, EXAB 内部アドレスバス
- 12 バスコントローラ
- 120 内部バスコントローラ
- 121 外部バスコントローラ
- 122 リフレッシュタイマ
- 21~26 IOポート
- 31~35 IOポート
- 40 ソース・アドレス・レジスタ (SAR)
- 41 ディスティネーション・アドレス・レジスタ (DAR)
- 42 データ転送モードレジスタ (DTMR)
- 43 算術演算器 (AU)
- 44 データバッファ (DB)
- 45 制御回路
- 46 アドレスバッファ (AB)
- 100 受信回路
- 101 バッファRAM
- 102 CGROM
- 103 プログラムROM

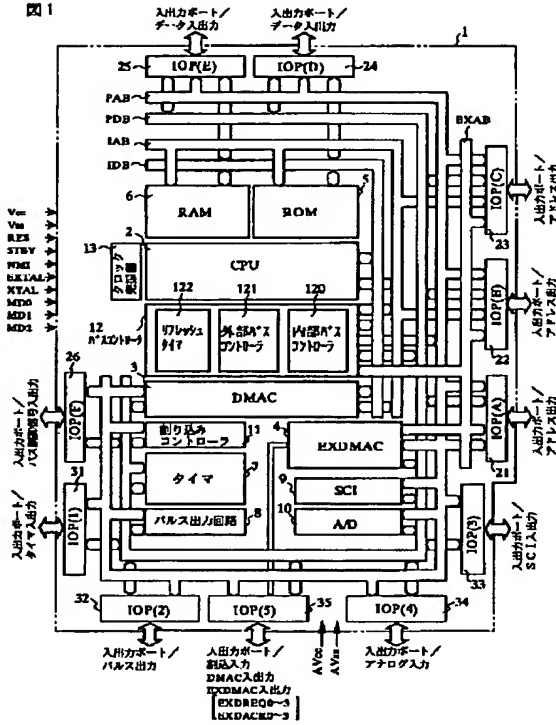
【図5】



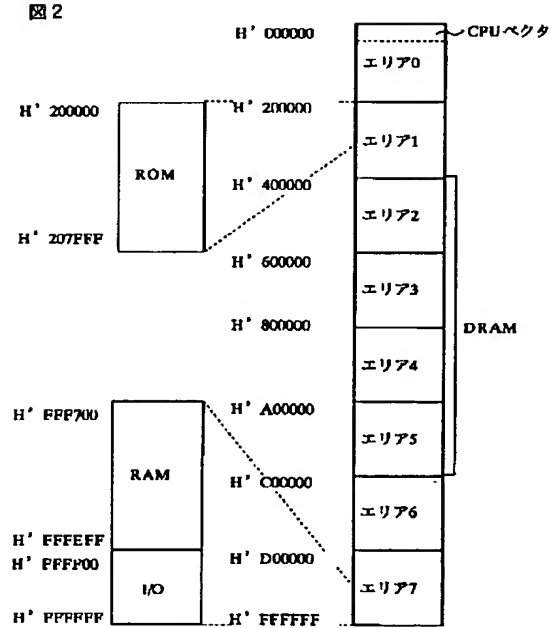
【図7】



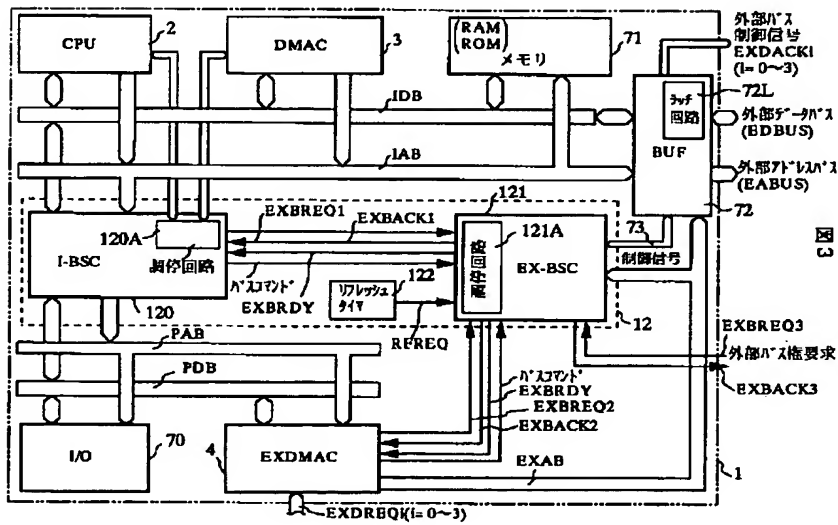
【図1】



【図2】

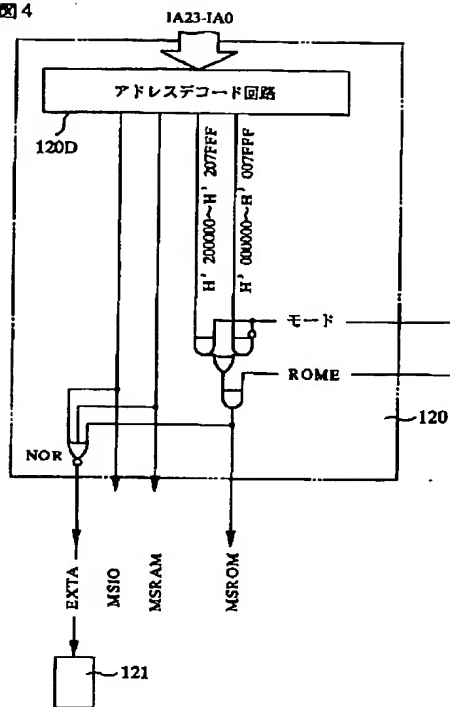


【図3】

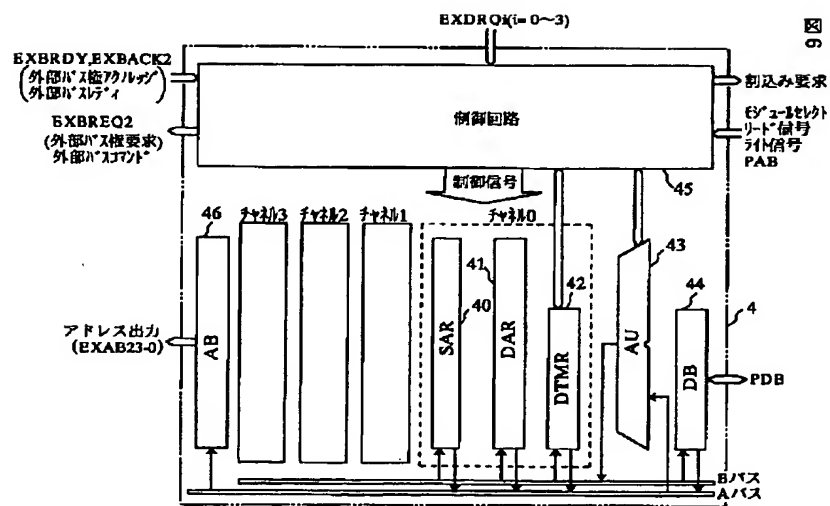


【図4】

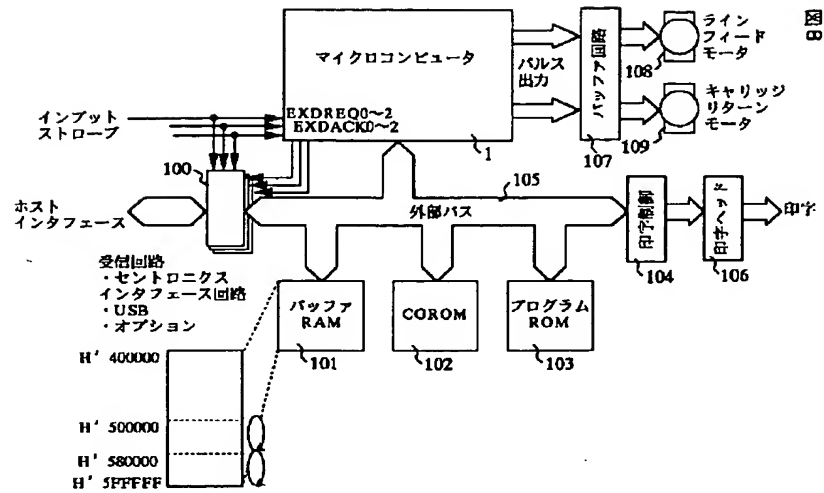
图 4



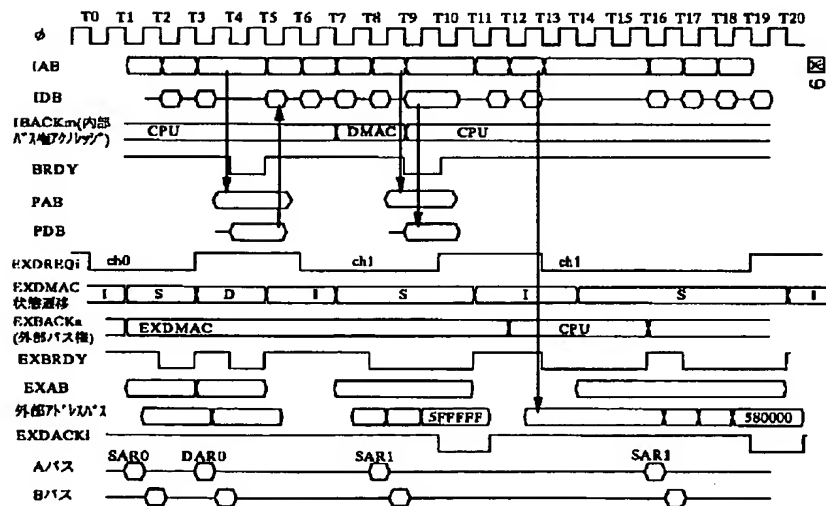
【図6】



【図8】



【図9】



【図10】

